

くらし彩

障害を持つ人たちとのようにかかわったらいいか、とまどったことがありませんか。障害についてわかりやすく伝えたいの思いをこめた、『マンガはじめの一步―障害のある人に出会うとき』(全国障害者問題研究会出版部)が好評です。

マンガ
川中 りおさん



主人公は、自閉症の「つよし」とくんとダウン症の「あかね」さん。養護学校小学部3年生から高等部を卒業して共同作業所で働くようになるまでを、川中りおさん(40)が描いています(5話)。

半年を費やし

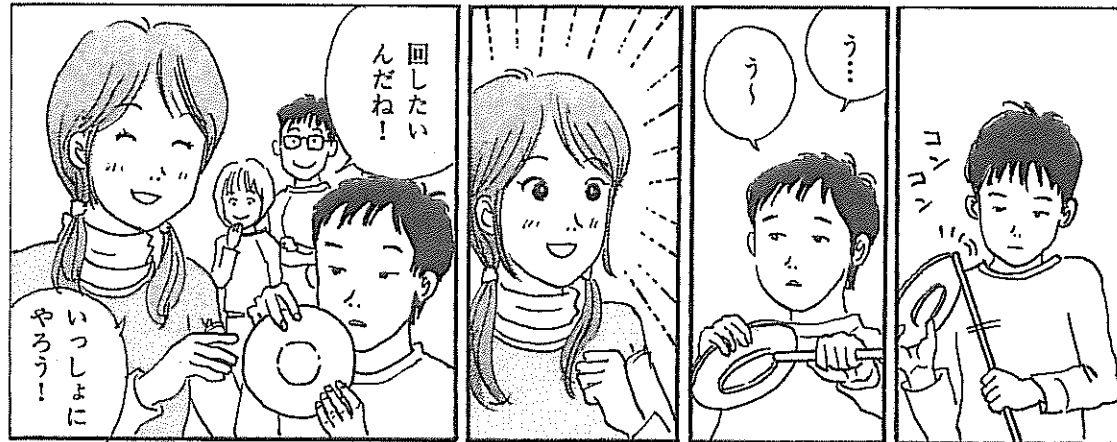
川中さんは、以前マンガを描いていたことがありますが、現在は会社員。「このお話があるまで、障害を持つ人のごことをまったく知りませんでした」といいます。

さまざまな現場の職員に相談をしてストーリーが決まってきた、自閉症やダウン症がどういった障害なのか、子どもの行動や表情などについて知るために、本や資料を読んだり、ビデオを見たりして勉強しまし

た。土・日の休みに、構成を考え、描き、半年かけて仕上げました。「人とかかわり方の大切さなど、製作を通して得たことは多かったです」

マンガで
分かりやすく

障害もつ人に出会うとき



養護学校で「介護体験」をする女子学生が、教師から出し物で子どもを笑わしてほしいといわれ、皿回しをする(1話)。うまく回らないとき、言葉

を発しない自閉症児のつよしくんがお皿を手にとって動かそうとします。自閉症は、言葉を通してコミュニケーションをするのが難しい障害ですが、思いをくみとって接する大切さを教えられたといえます。

家族の手記などを讀んだり、編集者の養護学校教員と話し合う中で「周囲の人が、隣の人に声をかけるように普通に接すればいいと強く思うようになりました」と川中さん。

理解し接する

障害のために、子どもが大声を出したり、発作をおこしたりパニックになることがあります。「そんなとき、周りの人がまゆをひそめたりする場合もありますが、奇異に思える行動にも理由があると知りました。こころを優しくすることがありませんが、そのことを理解して接すると付き添っている家族も楽になります。そういうゆとりが持てる社会になれば、子どもやお年寄りも生きやすくなると思うのです」

専門的な仕事

マンガでは、養護学校教員、学童保育の指導員、ガイドヘルパーたちが、ふたりの障害児にかかわりながら障害についての理解を深めています。

編集に携わった養護学校

教員は、「ひとりの人間にどう向き合い、働きかけていくかは専門性の必要な仕事です。そのことを多くの人に知ってもらいたい」と語ります。

ほかに、障害や制度の解説、親やきょうだい、本人の手記、「障害者自立支援

法」の問題、「発達障害を学ぶ」(全障研顧問・茂木俊彦さん)などが収録されています。
*木全和巳・妹尾豊広・三木裕和編 定価1000円(税別) 全障研出版部
0066(066666)2601